

末梢神経毒性

タキサン系抗癌剤は、その副作用に末梢神経障害を持っています。主に知覚神経の障害であり、しびれ感・灼熱感などの症状がみられます。神経毒性は多くの場合、可逆性であり、投与中止により回復するケースが多いといわれています。パクリタキセルに比較してドセタキセルは神経毒性の頻度が少なく症状も軽度です。

パクリタキセルによって起こされる神経毒性の頻度は、grade2-3 が 20-40%、1 回投与量で $250\text{mg}/\text{m}^2$ 、累積投与量で $1400\text{mg}/\text{m}^2$ を超えると出現する頻度が高くなると報告されています。

ドセタキセルでは、grade2-3 の神経毒性は 6-10%と報告されています。累積投与量として $600\text{mg}/\text{m}^2$ を超えると頻度が上昇すると報告されています。